

米づくり体験隊

(2017.06.24)

今年も「寺田縄ハッピー会」による米づくり体験隊が始まりました。初日の今日、天候は薄曇り、強い日差しは少なく、時折差し込む陽光に6月の陽ざしを感じました。今回はお子さんの参加が多く、カエルを見つけては歓声、用水に足を入れては歓声、もちろん、田んぼに踏み込み、足をとられては歓声。歓声、歓声の連続。賑やかに、楽しい田植えが行われました。



4月25日の写真です。今回、田植えを実施した田んぼです。緑色の中に紅色に見えるのが花です。名前は「クリムソンクローバー」といいます。



4月25日、満開には早すぎました。

「相模大山」が見えます。

田んぼの水は、「金目川」から引かれた用水です。水源地はこの大山です。

* 「クリムソクローバー」:

○ マメ科の植物です。

マメ科の植物は空気中のチッソ分を吸収し、成長して、土の中に植物の成長に大切なチッソ養分をもたらしてくれます。田んぼで「クリムソクローバー」を栽培するのはその効果を目的としています。イネのない田んぼに色どりを添えています。

○ 「クリムソン」とは、深い紅色を示す色の名前で、写真にある花の色です。

○ 花の形から、「ストロベリーキャンドル」、「ストロベリートーチ」という、かわいらしい名前を持っています。



米づくり当日の田んぼです。すっかり田植えの準備ができています。「クリムソクローバー」の畑が様変わりです。

5月に入り、田んぼは耕運機で掘り起こされました。農家の方々は、田んぼや畑を耕すことを「うなう（耕す）」といいます。イネが根を張り、成長をよくするために、土の塊をなくし、養分の均一化を図るために、同じ田んぼに何回かの耕運機を入れうないます。「クリムソクローバー」のチッソ分も、うない込まれます。

6月の中頃には、田んぼに水が引かれました。あとは皆さんの田植えを待つばかりに準備が整いました。



田んぼの中に張られたロープ、赤い印がつけられています。イネを植えこむ目印です。

目印に沿って植えこむことなく、乱雑に植えたならばどうなるでしょう。

イネは成長と共に株別れをします。4～5本植えたイネは成長すると倍近くの本数に株別れして、お米の収穫量を増やします。

また、次の作業は、「田の草取り」と云って、田んぼに生えた雑草を取ります。

時には、肥料を蒔くために田んぼの中に入ります。

これらの作業をするためには、田んぼの中のイネを、整然と植える必要があります。





開会式前の風景です。「紫陽花」が皆を迎えてくれます。

流れを「古川排水路」といい、なみなみと田んぼを潤した水が、流れ込みます。
田んぼに取り入れられる水を「用水」といい、「金目川」から引かれています。



ハッパ会の会長 石塚さんです。
挨拶の中で、今回のお米は「はるみ（晴る海）」であることが話されました。

* 「はるみ」は「晴れた海」、湘南の晴れわたる海をイメージして名づけられました。

開発は、平塚市内のJA全営農・技術センターが平成7年から取り組んできました。キヌヒカリとコシヒカリを両親として交配させています。22年から試作、26年に品種登録されました。長い年月をかけて「はるみ」は誕生しています。

平成28年度「日本穀物検定協会」の「米の食味ランキング」で神奈川県内産では初めての快挙、「特A」の高い評価を受けました。

「キヌヒカリ以上に甘みがある」、「もっちりしている」、「冷めても味が落ちず、おにぎりにしてもおいしい」などの評判により、去年は販売と同時に完売するお店も出たそうです。

私たちが植えるイネ、お米はこの大評判の「はるみ」です。秋の収穫が楽しみです。



「植えるイネは数本で良いのです」、「秋には、おいしいお米になりますよ」

植える前に「こつ」を教わりました。



田んぼには、二手に分かれて入ります。ハウス側は田植えに慣れた人達。
自分の田んぼのように、何度も田植えを経験した人もおいでです。



こちら側には、初めての人たちも多くおいでです。
初めて、深い泥の中に踏み込むには、少々勇気が必要でした。身体がふらつきながらも、しっかりとした第一歩が出来ました。



手慣れた人たち、両の足をしっかりと踏ん張り、不動です。



重たい、纏められた苗でも“へいきへいき”足は台地を踏みしめています。



お父さん、お母さんに分けてもらった、苗、指先に持ち、植えこみます。



両足と植えこむ手、しっかりとした三角形、安定した姿です。



整然と置かれた履物群。皆の帰りを待っています。
しつげが、偲ばれます。



慎重に、慎重に、やさしい手つきが印象的です。
僕は、もう田植えに慣れましたね。



みな協力で、植えては前へ、植えては前へと進みます。



手慣れた人たちとの距離が狭まりました。



「新米」の登り旗に後押しされて進みます。
ちょっと、疲れたかな。取られる足を気遣うこと、意外に疲れます。



手慣れた人たち、スピード感を醸します。



田植は、確か進んでいます。すでに何列か植えこまれました。
「イネを踏まないようにね」、「でも、足が・・・」



両者のドッキング。 両サイドからの田植え、出会いの瞬間です。





緊張した田植えは無事終了しました。
側溝の排水路に足を浸し、泥を落とし疲れを癒します。



機械で植えるとその通り、早くて、まっすぐに植わります。



挑戦が完了した、私たちの田んぼです。
踏まれた足跡も見えますが、植えこまれたイネはよく揃い、直線に見えます。
上出来です。

次、田んぼに入るのは「田の草取り」。植えた苗の育ち具合が楽しみです。

ハッパ会の皆さま有難うございました。

またお会いいたしましょう。

<文責:片山興大>